小平市議会定例会　一般質問通告書

質問の方式　２一問一答方式

質問件名　ともに生きるための発達支援を

【質問要旨】

発達障がいについては、脳機能の研究が進みさまざまなことが解明されてきました。幼いときからの療育や学齢期での生活や教育現場の工夫による習慣づけ、あるいは周りの人の理解によって、本人の生きやすさも大きく違うこともわかってきています。

育ちに気がかりなことがあり、親にとっても悩みとなる場合も含め、発達支援は非常に重要な事業です。発達障がいという診断によるふりわけを目的とするのではなく、その子が一生を自分らしく生きていくために発達支援はあります。将来、社会に出てさまざまな人と共に暮らしていくために長期的な視点に立って寄り添い見守っていくことが必要です。

現在、小平市では子育て支援や乳幼児健診、福祉、特別支援教育などさまざまな部署のさまざまな事業で発達支援を行っています。保護者の関心も高く、議会でもたびたび事業を集約する発達支援センターの必要性が取り上げられています。厚生委員会では、8 月に小金井市、この 11 月には日野市に発達支援センターの視察に行きました。

その上で、やはり子育て、福祉、教育がつながり、子どもの成長にそった支援を行うためには、各事業の連携を円滑にする拠点があるほうが、より効果的であると感じました。子どもたちが社会で共に生きていくための発達支援を充実させていくため、以下の質問をします。

①子育て支援や保育園や幼稚園、乳幼児健診、療育や訓練での福祉、そして学校教育と複数にまたがる施策の連携における効果と課題点は。

②小平市障がい者福祉計画･第４期小平市障害福祉計画の検討委員会の中では発達支援センターについてどのような意見があり、どのような方針になっているか。

③発達支援センターの可能性について、ソフトではなくハード面での検討は庁内でどのようにされるのか。公共施設マネジメントでは、現在はない施設機能についての検討も入れ込んでいくのか。

④特別支援教育に関する学校現場での研究成果をその後どのように生かしているか。例えば 2010 年に鈴木小学校で行われた研究発表会「一人一人が輝く学校を目指して」でのユニバーサルデザインの授業などは、普通級での発達障がいや傾向児の学びにどう生かされているか。

⑤子どもの発達にとって体を動かしたり友だちとの関係性をつくる「遊び」は重要と考える。市の施策で子どもの遊びはどのように位置付けられているか。

⑥高校卒業後や大人の発達障がいについて、市として考えている支援はあるか。

上記のとおり、小平市議会会議規則第 57 条第 2 項により通告します。

2014 年 11 月 13 日　小平市議会議長　殿

小平市議会議員　氏名　日向　美砂子

受付番号【　　　　】

26	25	24	23

―（　　　／　　　）